

# 安全報告書 2013



## 秩父鉄道株式会社

1. 経営責任者からのメッセージ
2. 輸送の安全に対する基本方針と安全目標
3. 安全管理体制と方法
4. 輸送の安全への取組み
5. 安全確保のための教育・訓練
6. 鉄道事故等に関するご報告
7. ご利用のお客様、地域の皆様とともに

## 1. 経営責任者からのメッセージ

「安全報告書2013」の公表にあたって

秩父鉄道株式会社  
代表取締役社長 大谷 隆 男

日頃より、秩父鉄道をご利用いただき、誠にありがとうございます。

先ず、昨年8月に広瀬川原の車両工場内で入換作業中のSLが脱線し、多くの皆様にご心配とご迷惑をおかけしたことに、深くお詫び申し上げます。原因は係員の確認の疎漏が重なった人的ミスで、係員の再教育による基本動作の遵守と作業方法の見直しにより、再発防止を図りました。

車両脱線の発生を踏まえ、「安全・安定した輸送の確保」が最大の使命であることを常に強く意識して職務を遂行することの重要性を再徹底いたしました。また、埼玉県や沿線市町からも支援を受け、安全に対する積極的な投資を行って、車両や鉄道施設の安全対策工事を推進いたしました。今後も全社員が一丸となって「安全・安定した輸送の確保」に取り組んで、お客様に安心してご利用いただける鉄道を目指してまいります。

本報告書は鉄道事業法に基づき、2012年度における当社の安全輸送のための取り組みや輸送の実態をご紹介するために発行いたしました。

皆様の声を、今後のより一層の安全輸送に役立てるため率直なご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。



## 2. 輸送の安全に対する基本方針と安全目標

### (1) 基本方針

『輸送の安全確保、無事故・無災害の達成』を最優先として、社員一人ひとりが行動するための基本方針を、「安全行動規範」として掲げ全社員に周知しています。

#### 「安全行動規範」

- ① 一致協力して輸送の安全確保に努めます。
- ② 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正忠実に職務を遂行します。
- ③ 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
- ④ 職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いをします。
- ⑤ 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。
- ⑥ 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
- ⑦ 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦します。

(2) 安全目標

年間ゼロ災害達成の実現  
 “スローガン”  
 基本動作を怠らず 指差称呼でまず確認

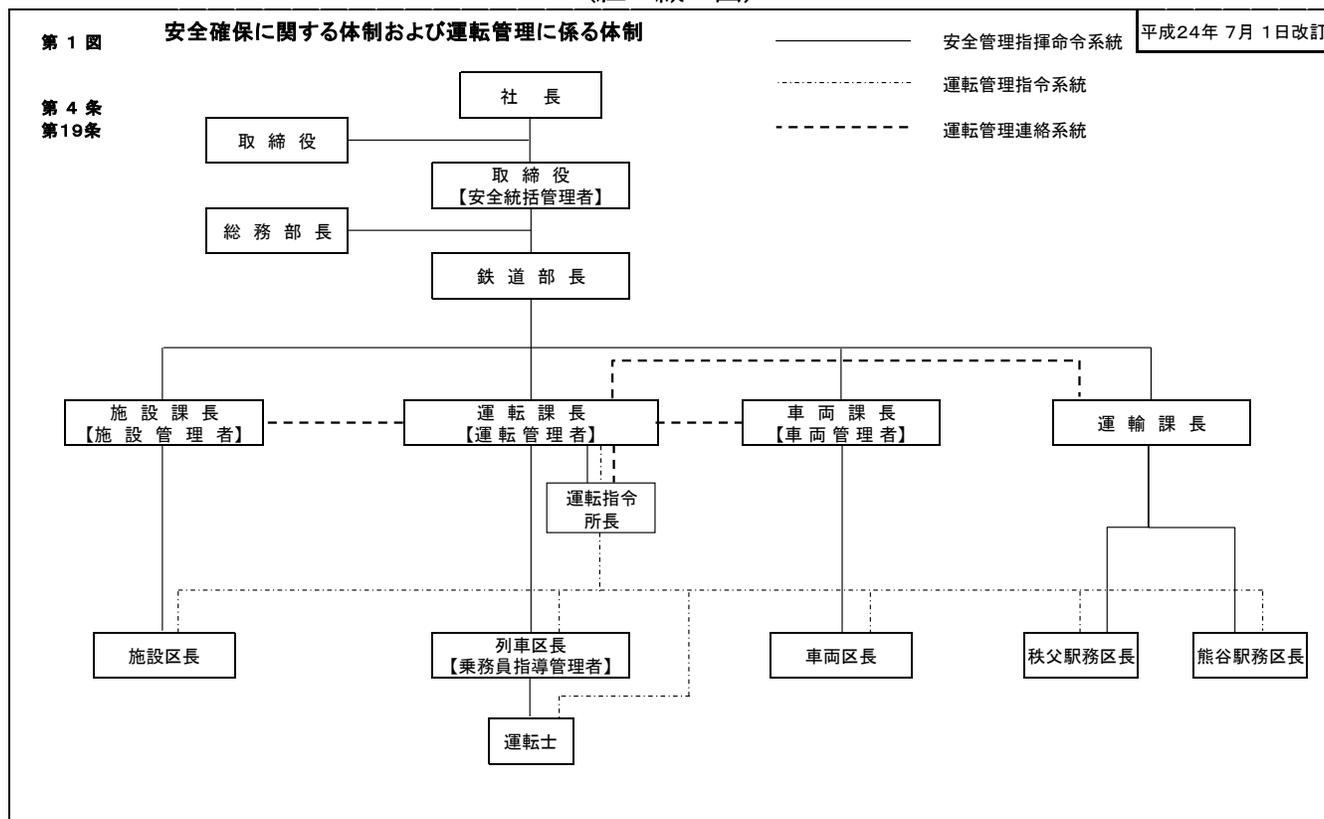
3. 安全管理体制と方法

(1) 安全管理体制

2006年10月1日に制定された「秩父鉄道 安全管理規程」では、社長を最高責任者とし、社長が選任した安全統括管理者のもと、安全推進の管理体制を確立し、各管理者の役割と権限を明確に定めています。

役	職	役割
社	長	安全第一の意識をもって事業活動を行える体制の整備に努めるとともに、輸送の安全を確保するための最終的な責任を負う。
安全統括	管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
総務	部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。
鉄道	部長	安全統括管理者の下、運転、施設、車両に関する業務を統括する。
運転	管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員	指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
施設	管理者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を管理する。
車両	管理者	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を管理する。

(組織図)



## (2) 安全管理の方法

### ① 運転事故防止対策委員会

輸送の安全確保を目的に、安全統括管理者を委員長とする「運転事故防止対策委員会」を毎月1回開催し、事故、不具合等が発生した場合の多面的分析、再発防止施策の立案、審議、ヒヤリハット報告事項等の対策を検討し、その処置の確認等を行っています。また、年2回同委員会では現業職場において適正に業務が行われているか点検するための安全指導（巡回・列車添乗）を実施し、現業職場の実態の把握に努めています。

### ② 職場巡視

夏季運転無事故運動、年末年始輸送安全総点検の運動期間中、社長、役員、各部課長が現業職場を巡回訪問し、各職場から提出された各運動実施計画書に基づき、作業の視察や係員との意見交換を行い、双方向のコミュニケーションを図っています。

### ③ 輸送安全総点検

2012年度は入換作業中の車両脱線の発生を踏まえ、運転事故を防止して輸送の安全を確保するため、社長を委員長とする輸送安全総点検委員会により原因の究明と職場に潜む問題を吸い上げ、その対策及び安全意識高揚のための施策立案を実施し、無事故無災害に向け取り組んできました。

この委員会の専門部として検証やチェックを実施するため、運輸部会、運転部会、車両部会、施設部会の分科会を設けて、規程や規則・マニュアルの有効性を検証し、それらを職員全員が十分理解しているか、職場全体で危険な作業や箇所を共有認識した上で業務に従事しているか等の検証やチェックを実施すると共に、職場の意見を聴取し各職場における課題の抽出を行いました。

その結果として、鉄道事業に従事する者の基本である指差称呼による安全確認が不十分であったことと、意思の疎通や教育不足が指摘されました。これらを緊急に改善するため、安全対策及び全従業員が指差称呼を完全に実施して安全意識高揚を図り、教育訓練の充実については、鉄道技術講座の受講や外部機関から講師を招いての研修会等、体系的な教育を計画的に実施して基礎知識の学習や意識高揚に努めています。

今後も無事故無災害の達成に向けた取り組みを、運転事故防止対策委員会をはじめ、各職場における安全会議、既存の運動期間における職場巡視等により継続的にフォローして行きます。

## 4. 輸送の安全への取組み

2012年度も列車運行の安全性の確保・維持と改善、旅客サービスの向上のため、安全対策、修繕工事を実施しました。これらのうち主な安全への取組みについてご紹介いたします。

### 安全重点施策

#### (1) 2012年度の安全対策工事の主な修繕費

安全対策更新工事	492,644千円
主な線路修繕工事	89,486千円
主な電気修繕工事	43,739千円
主な車両修繕工事	17,124千円
計	642,993千円



## (2) 2012年度の安全対策工事

### ① 車両の更新

現在、秩父鉄道の1000系電車は各種リバイバルカラー等でご好評をいただいておりますが、新造後の経年を考慮して代替を進めております。秩父鉄道仕様の運転保安装置を搭載し、車両放送案内表示器、自動放送装置、車椅子スペース設置等のバリアフリー化のうえ、2011年度に3編成9両、2012年度に1編成2両の代替を行いました。2013年度は1000系電車3編成を更新し、これにより1000系電車の更新が完了する予定です。

### ② 重軌条交換

安全確保の為の中長期整備計画に基づき、2009年度は行田市構内及び行田市～持田駅間1.76km、2010年度は武州荒木～東行田駅間1.67kmのレールを交換しました。2012年度もレール頭部摩耗や継目の傷みの発生している、持田～熊谷駅間1.576kmの37kgレールを太い50Nレールに交換し、列車走行音の低減と安全性と乗り心地の向上を図りました。今後も計画的に重軌条化を進めていきます。

### ③ コンクリート枕木化

列車が高速で走る区間や貨物列車を運転している区間から順次木枕木をレールの締結力が強いコンクリート枕木に交換し、レールの劣化を防ぐとともに乗り心地の向上を図っています。2011年度の1,026丁に引き続き、2012年度は新郷～武州荒木駅間の2,500丁のコンクリート枕木に交換しました。2013年度は2,963丁のコンクリート枕木化を進めていきます。

### ④ 分岐・橋・継目枕木交換

経年劣化した分岐枕木、橋枕木、継目枕木等2,173丁の枕木の交換を実施しました。

### ⑤ 軌道整備

線路の道床交換を270m実施し、道床碎石を1,630t補充のうえ、マルチプルタイタンパーによる軌道整備を74.65km実施しました。

### ⑥ 踏切道の安全性向上

2012年度は第4種の秩父本線黒谷No.7踏切道に警報機と遮断機を設置しました。2013年度は第4種の東行田No.1踏切道に警報機と遮断機を設置し、踏切道の安全対策を進めていきます。

### ⑦ 踏切保安設備の主要部品の更新

秩父本線と三ヶ尻線の第1種踏切道の既設踏切保安設備について、経年した踏切遮断機25台と列車検知装置79台の更新を実施しました。

### ⑧ 駅の信号装置の更新

秩父本線の各駅に設置されている信号保安設備（継電連動装）の更新を進め、列車運行の安全性確保に努めています。2012年度は小前田駅と寄居駅の継電連動装置の更新を実施しました。今後も計画的に継電連動装置の更新を進めていきます。

### ⑨ 架線の張替

摩耗や経年劣化が進んだ電車線1,402mと吊架線998m、高圧配電線106mの張替を実施しました。

## 5. 安全確保のための教育・訓練

### (1) 現業職場における各種訓練

各現業職場において、春の全国交通安全運動など年4回実施される運動期間中に車両応急処置訓練、高所作業訓練等を実施する他、鉄道技術講座の受講（保線、電気、車両関係）や外部機関から講師を招いての研修会（軌道管理手法）等係員の知識技能の維持と向上を目的として取り組んでいます。



電気高所作業訓練



車両載線訓練



乗務員訓練



列車防護訓練

### (2) 異常時総合訓練

この訓練は、踏切事故等重大事故が発生した場合を想定して、当社本社のある熊谷市の消防本部と合同で、お客様の避難誘導、関係各所への連絡速報体制、負傷者の救出と復旧作業等、異常時における知識・スキルの向上を目的として毎年取り組んでいます。

今年度は、2013年3月に広瀬川原駅構内で、大雨の影響により道床が一部陥没しており、衝撃で列車が脱線し、乗客が負傷したことを想定した訓練を実施しました。



### (3) 防災訓練（減速運転・異常時出動訓練）

毎年、9月1日の防災の日または防災週間に大きな地震が発生したことを想定して、列車の減速運転、関係各所への情報伝達を行い、橋梁等の施設点検を現地に出動し確実な安全確認が行えるよう訓練を実施しています。



## 6. 鉄道事故等に関するご報告

2012年度に発生した「鉄道運転事故」「輸送障害」「インシデント」の発生件数は以下のとおりです。

鉄道運転事故	2件
・列車脱線事故	0件
・踏切障害事故	2件
・鉄道人身障害事故	0件

※ 鉄道運転事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身傷害事故をいいます。

輸送障害	13件
・自然災害等によるもの	7件
・設備の故障によるもの	5件
・自殺等によるもの	0件

※ 輸送障害とは、列車の運転を休止したもの、または、30分以上の遅延を生じたものをいいます。

インシデント	1件
--------	----

※ インシデントとは、運転事故が発生するおそれがあると認められた事態をいいます。

## 7. ご利用のお客様、地域の皆様とともに

### (1) サービス介助士資格の取得

社会の高齢化が進む中、多くのお客様に安心して鉄道をご利用いただけるよう、職員のサービス介助士資格の取得を推進しております。2012年度までに駅係員23名、列車乗務員6名が資格を取得しました。

### ① AEDの設置

秩父鉄道では、お客様の急病等万一の事態に備え羽生、熊谷、寄居、長瀨、秩父、御花畑駅にAED（自動体外式除細動器）設置しています。

### (3) こども110番の駅

通学や学習塾などに通うため鉄道を利用するお子さまが、より一層安心して駅を利用することができる環境づくりを目指し「こども110番の駅」の取組に参加しています。こどもを危険から守り、安全な地域づくりに貢献することを目的に積極的に推進して行きます。

この安全報告書に関するご意見、お問い合わせ等は  
秩父鉄道株式会社 鉄道部 運転課  
TEL 048-523-3871